

神戸合成株式会社

社納税協会常任理事

設立 1963年(昭和38年)

本社 兵庫県小野市匠台10番地

車のコーティング剤や防錆剤、金型の洗浄剤、離型剤などを主に製造する神戸合成株式会社は、徹底した品質管理と研究開発力で業界を牽引し、主に国内の大手自動車・二輪車のメーカーと取引しています。代表取締役社長の宮岡督修さんに、業界をリードするコーティング剤の開発と、これからの展望について伺いました。



代表取締役社長
宮岡督修さん



エアゾール缶に内容液とガスを充填する工程。エアゾール充填のラインを自社内で保有する化学メーカーは少ない。



充填が終わったガス缶は、缶を加温してガス漏れの目視検査を行った後、ウェイトチェッカーで全数重量検査を行う。



業界初の無酸素空間での自動充填装置。手作業での充填は700本/日が限界だったが、2,800本/日生産できるようになった。



右端の「鎧」は、雪の多い地域などで融雪剤や塩水から足回りを保護する防錆塗料。真ん中は、新発売の不燃性のブレーキクリーナー「ゼロファイアー」。

ケミカル製品で国内の主要自動車メーカーと取引。今後は医薬部外品の開発にも注力。

はじめは本田技研工業株式会社の直納元として、純正ワックスの共同開発を行っていました。私が入社してからは取引先を増やすため、他の自動車、二輪車、建機、農機の会社へ積極的に営業するのと平行して、分析・評価・検査機器を充実させ、より良い製品の研究開発を行った結果、現在は国内の大手各メーカーとODMなどで取引を持っています。車関係のケミカル製品が主力商品です。製品はエアゾール缶に入れて出荷することが多く、阪神・淡路大震災をきっかけに、一部の製品の充填は自社内で行えるようにしました。

今の車のコーティングの主流は、ガラス系の撥水コーティング剤です。効果の長いものは一度塗ると5年間は手入れ不要ですが、複数の液を塗る直前に混ぜるなど、手間がかかるのが問題でした。そこで当社は、初めて1液性の撥水コーティング剤を開発しました。このコーティング剤は空気中の水分に反応してガラス化するもので、ドライ空間で調合・充填する必要があります。最初は手作業で行っていましたが、2014年に自動で充填できる装置を開発し、量産体制を整えて業界をリードしています。これまでに親水のコーティング剤も商品化しています。親水コーティングとは、水が車全体を濡らしながら流れることで車についた汚れを取ってくれるというものです。現在の出荷数は全体の1割程度ですが、今後活かせる場があると期待しています。さらに、研究開発の実績を活かし、今後は車のボディメイクだけでなく人のメイク剤にも活躍の場を広げたいと考えています。使う化学原料は同じ。医薬部外品の製造の許可は取得済みです。まずはバイク愛好家のためのデオドラントや、車の消臭剤の開発から取り掛かります。